

製品名: PTP1B (リン酸化Ser50) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05315**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	PTPN1
別名	PTPN1; PTP1B; Tyrosine-protein phosphatase non-receptor type 1; Protein-tyrosine phosphatase 1B; PTP-1B
遺伝子 ID	5770.0
SwissProt ID	P18031
免疫原	抗血清は、ヒト PTP1B の Ser50 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 16-65

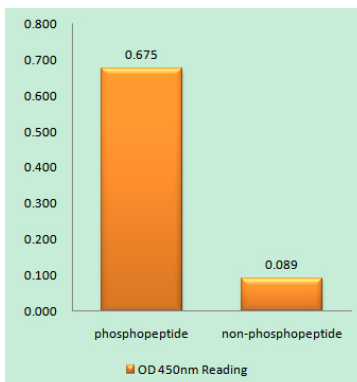
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、タンパク質チロシンホスファターゼ (PTP) ファミリーの創始メンバーであり、酵素活性とアミノ酸配列に基づいて単離・同定されました。PTP は、チロシン残基を特異的に標的としたリン酸モノエステルの加水分解を触媒します。PTP ファミリーのメンバーは、触媒活性に不可欠な高度に保存された触媒モチーフを共有しています。PTP は、細胞増殖、分化、有糸分裂周期、がん化など、様々な細胞プロセスを制御するシグナル伝達分子として知られています。この PTP は、インスリン受容体キナーゼのホスホチロシン残基を脱リン酸化することにより、インスリンシグナル伝達の負の調節因子として作用することが示されている。この PTP は、JAK2 および TYK2 キナーゼだけでなく、上皮成長因子受容体キナーゼも脱リン酸化することが報告されており、触媒活性の役割が示唆されています: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能: CKII および p60c-src 誘導性シグナル伝達カスケードにおいて重要な役割を果たす可能性があります。PTM: Cys-215 で酸化されます。酸化還元シグナル伝達にตอบสนองして形成された Cys-SOH は、次の残基の α -アミドと反応して 4-アミノ-3-イソチアゾリジノンセリン架橋を形成し、基質結合および活性を阻害する構造変化を引き起こします。活性部位は還元によって回復できます。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。非受容体クラス 1 サブファミリー。類似性: 1 つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含む。

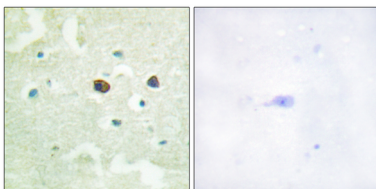
研究分野

接着結合部;インスリン受容体;

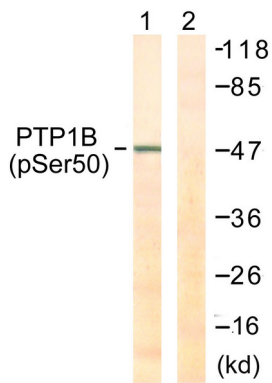
画像データ



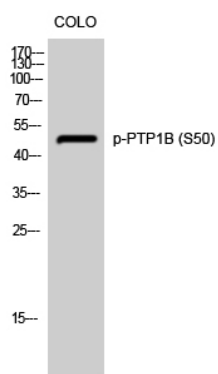
PTP1B (リン酸化 Ser50) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



PTP1B (リン酸化 Ser50) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 30 処理した COS7 細胞ライセートの PTP1B (リン酸化 Ser50) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 希釈の Phospho-PTP1B (S50) ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析